

靈的事実を知らないと(ルカ 10:38-42)

今日の聖書を見て普通に考えると、マルタの方が常識にかなっていると思いませんか。なのに、イエス様はマルタよりマリアの方を褒めていらっしゃいます。少しおかしいなあという思いはないのでしょうか。なぜイエス様は、イエス様のおもてなしのために一生懸命頑張って動いてるマルタより、イエス様の足元に座ってお話を聞いているマリアの方が良いことを選んだとおっしゃったのでしょうか。私たちもクリスチヤンとして信仰生活をすると言いながらも、その信仰生活がマルタのように常識のレベルに囚われて振り回されるようなことはないでしょうか。今日の聖書、イエス様がマルタよりマリアの方が良い方を選んだとおっしゃったことを理解するためには、今まで私たちがあまり大事に思っていなかった靈的事実、靈的世界があることを考えなければなりません。イエス様の評価が私たちの常識と違っていた理由は、私たちは靈的事実を無視して、あまり知らないまま評価して判断するので、常識のレベルに縛られるしかありません。しかし、イエス様は靈的事実、靈的世界のことを元にしてお話をし、また評価していらっしゃるので、評価が違ってくるのは当然かもしれません。靈的事実、靈的な世界というのは一体何でしょうか。私たちはお父さん、お母さんから自然に生まれたものではなくて、創造主の神様によって造られた被造物であり、特に他の動物や他の生き物とは違って、神のかたちとして造られました。神様は私たちの肉眼には見えない靈です。そして、私たち人間も肉体を持っているけれども、その神様と交わることができたましいを持っている靈的な存在として造られました。これが靈的事実です。それを神のかたちに造られたと言うわけです。人間はその状態そのものが幸せであり、喜びであり、力そのものでした。なのに、目に見えない悪霊を用いて働いている悪魔サタンというものに誘惑されて、人間は罪を犯し神様を離れることになってしまいます。そのときから人間にとて一番大切なたましいが、その靈が死んでしまいました。これが靈的事実です。結果、人間は生まれながら自分で絶対抜け出すことができない滅びの運命、地獄の運命を抱えて生まれて生きるようになります。自分では、人間の力ではこの靈的な問題は解決することはできません。それが靈的事実です。問題の形はいろいろ違います。しかし、そのすべてのいろいろな形の問題の根源には、この靈的な問題、悪魔サタンに誘惑されて神を離れた結果、地獄の運命を抱えているという理由があることを地球上で住んでいる人々はわかっていないません。なので、人間が助かる道、希望の道、救われる道は唯一、神様から送られる、神様から約束されたキリストの他にはありません。これが靈的事実です。そのキリストが約束通りにこの世に来られました。その方がイエス様なのです。いまマルタとマリアは、そのキリストであるイエス様をお迎えしてたわけです。もちろんマルタはイエス様を喜んでお迎えしましたけれども、このよう靈的事実について全くわかつていなかったようです。なので、今日のこの聖書を通して、私たちはこのようなメッセージをいただくことができるわけです。

1. 精神的事実を知らないと信仰生活は宗教生活になる。

その第一、信者でも靈的事実、靈的世界を知らないと信仰生活をするつもりなのですが、宗教生活になってしまふということです。

多くのクリスチヤンが、自分もそうでしたが、イエス様を信じて信仰生活をするつもりなのですが、それが宗教生活であることになかなか気づかないのです。

1) 神様のためのつもりがためにならず

マリアのようにイエス様のためにと思って一生懸命頑張ります。多くのクリスチヤンが神様のためにというつもりで一生懸命頑張って努力します。しかし、それが神様からご覧になったときには、神様のためになるものではありません。でも、私たちは靈的事実がわかつていないので、そのレベルで自分自身が基準になって、神様のためにという思いで一生懸命努力します。また、神のみことばを文字通りに守ろうと頑張ります。しかし、それは残念ながら、一番最初、悪魔に惑わされて弟アベルを殺してしまったカインの道と同じ道をたどるような恐ろしいことになってしまいます。カインの神様に自分なりには自分の仕事の現場で得られた穀物をもって一生懸命誠意をもってささげました。その証拠が何かと言いますと、そのような誠意がなかったならば受け入れなかったとしてもそんなに怒ることはなかったでしょう。カインも自

分なりには努力して、誠意をもって真面目にささげました。けれども、それが神様のためにと受け入れられるだろうという思いでやったでしょうけれども、全く神様には受け入れられることはありませんでした。つまり、自分では自分のレベル、基準でこうすれば神様に喜ばれるだろう、こうすることが正しいことだろうと思って頑張っているのですが、靈的事実がわかつていないので、結局チップンカンパンになるしかありません。神様のためになるものではないのに、私たちはそういうふうになるしかなかったわけです。

2) 重荷になり（マタイ 11:28）

なので、そのような信仰生活が続いていると、結局、信仰生活そのものが重荷になってしまいます。信仰生活は重荷ではありません。喜びであり、さまざまな困難があるにしても感謝であり、希望にあふれるものが信仰生活なのです。しかし、残念ながら多くのクリスチャンが、信仰生活をするつもりなのに、それがだんだんと重荷になってしまい、イエス様がおっしゃった通りに、すべて疲れて重荷を負っている者、その対象になってしまいます。

3) 不満が募る

重荷になってしまいと、人間というのは結局、心の中に不満が募るようになります。不満が募るようになった場合は、何かのことがあれば他人に対して批判しさばいてしまったり、自分の弱さや自分の足りない何かを見たときには落胆してしまうようになります。その繰り返しになってしまいます。

4) 試みに遭う

そのうち何かがあれば結局、つまずいて試みに遭うことになり、信仰生活から離れてしまうようになるか、信仰生活そのものが破綻してしまう、そういう残念な結果になってしまいます。

5) 福音の人への不理解、怒り、攻撃

自分が宗教生活をしていることもよく知らないままの状態で、本当に福音が何かわかつて、その福音を味わって答えられる人を見たときにはなかなか理解できないのです。自分の基準で福音を味わい自由なクリスチャン見たときに、正しくないと見えてきたり、間違っていると見えてくるわけです。それで、それに対して怒りを露わにしたり、あるいは訴えたり、攻撃を仕掛けたりする場合もあります。自分はいま不満の中で疲れているのに、福音の人、福音を味わう人は答えられるわけです。それが到底、我慢できないわけです。それで結局は福音に対して対抗するような側に立ってしまうことになります。悪魔サタンに遊ばれることになるでしょう。いま申し上げましたこのような内容が実は宗教生活なのです。こういうふうになりたいからなるわけではなくて、靈的事実がわかつていないか、無視しているか、それがあいまいな場合はこうならざるをえません。これこそが今日の聖書から見られるマルタの姿なのです。マルタは自分なりにはイエス様のために常識に従って一生懸命もてなしのために動き回っていました。でも、それが重荷なのです。なのに、マリアは何もしないで足元でお話を聞いてばかりなので腹を立てて、それでイエス様に「マリアが私を手伝うように何とか言ってくださいよ」と不満が爆発するようなことが今日の聖書に紹介されているわけです。もちろんこれは小さなことでしょうけれども、原理的に申し上げると、クリスチャンなのに、教会に通っているのに靈的事実が曖昧であり、あるいは無視したり、わかつていない場合は、仕方がなく、信仰生活のつもりなのに宗教生活にならざるをえないということをぜひ心に覚えて吟味していただきましょう。

6) わざわい

そして、このような宗教生活はカインを通して見られるように、結局、わざわいを招くようになるわけです。だから最終的には、よりこんがらがって混乱してしまいます。ユダヤ人のように、私は神様のために命がけで律法を守り、一生懸命祭りを守り、一生懸命ささげて信仰生活をしたつもりなのに、捕虜になったり植民地になったり奴隸として売られたりという歴史を辿ることになったわけです。今でもイスラエルの人たちは、そのことについてわかつていません。なぜかと言いますと、ユダヤ教は靈的事実を全く知らないし、認めていないわけです。私たちはユダヤ人ではありません。しかし、幸い神様の恵みによってイエス様を救い主として信じクリスチャンとして信仰生活の祝福が与えられているのに、靈的事実がわから

ず、その目が暗くなつて、いくらメッセージを聞いて、いろいろなお話を聞いていても、その靈的事実だけは曖昧になるサタンの働きによって、結局、信仰生活が宗教生活になつてしまつ残念な現実をそのまま放つておかないで、これこそが悔い改めるべきことなのです。神様、私は一生懸命、信仰生活をするつもりでした。しかし、実は悪魔に見事に騙されて宗教生活をしていました。そのように悔い改めて、靈的事実を認めて、そこから再スタートしなければなりません。そうでないとマルタのように不満ばかり積もつて、教会に通つてゐることが疲れて重荷になつてもういやだという感じにならざるをえないことなので、今日の聖書を通してぜひ吟味していただきたいと思います。

2. 灵的事実を知ることで正しい信仰生活が可能になる。

なので、当然、靈的事実を知ることができれば、そのときから正しい信仰生活が可能になるわけです。

正しい信仰生活をしたいと思う方は、信仰生活をやろうとする前に、靈的事実を正しく知ろうと思っていただきたいと思います。靈的事実がわかつたときに、正しい信仰生活が始まられるわけですが、そういう意味で正しい信仰生活とは何でしょうか。

1) キリスト優先、中心

それはキリストが優先であり、キリスト中心になることです。誰が正しいか、どちらが間違つてゐるかということが優先ではありません。状況が厳しいのか、やりやすいのかということが優先テーマになりません。靈的事実がわかつたので、そのすべてのところからキリストが優先であり、キリスト中心になります。いつもキリストのゆえになんてだろうか。キリストのためにどういう意味があるのだろうか。過去を振り返つたときにも、その過去において誰が良かったのか悪かったのか、自分がどうだったのかではなくて、キリストに会うためにどういう意味があつたのだろうかと全部がキリスト中心、キリスト優先なのです。パウロが告白しているように、私はキリストとともに十字架で死んだ。いま私が生きるのは、私のために自分のいのちをささげられたキリストを信じる信仰によつて生きるよと。すべてがキリスト中心、キリスト優先になる信仰生活をすることになります。

2) 自分、肉、この世の無能

そして、言葉を変えますと、今まで自分中心であり、目に見える肉的なものが中心であり、この世が中心であつて頑張つてきました。しかし、靈的事実がわかりますと、今まで基準にしていて、またそれによつて左右されていた自分、自分の考え、肉、この世にあるものは靈的事実に対しては無能なものであり無力であるということにやつと気づくようになるわけです。それは世の中を生きていくためにいらぬものという変な主義ではありません。必要なものでしようけれども、それが人間に一番大切な靈的事実、靈的問題に対しては、まったく 1mm も通用しない無能なものであり、無用なものだということに気づくようになります。それがキリスト優先、キリスト中心という意味なのです。

3) キリストを見上げ

なので、正しい信仰生活というのは、いつもどのような状況でもキリストを見上げることなのです。十字架の上ですべて完了したと宣言された勝利のキリストを見上げることなのです。そのキリストが復活なさつて、いまも働いていて、いまも神の国のこと成していらっしゃるわけです。そのキリストを見上げることです。再臨の主、さばきの主として来られるキリスト、そのキリストを見上げることが正しい信仰生活です。何をどうするか以前に、キリストを見上げることです。つまり、信仰の方向性がキリストに向かうことになり、そのキリストが現れること、そのキリストが豊かになること、それを期待して求めていくこと、それを信仰生活と言います。なぜなのでしょうか。靈的事実が間違ひなければ、靈的世界が目に見える世界すべてを動かしてゐる原因だと認めるのであれば、キリストを見上げるようになるしかないし、それが喜びであり、そこに答えがあるわけです。

4) キリストをより深く知り

そして、靈的事実が何かわかつたときに、そこで生まれる正しい信仰生活というのは、そのキリストをより深く知ろうとするようになります。それが信仰生活です。何かを一生懸命やることは結果なのです。エ

ペソ3：18では、キリストの深さ、高さ、広さと言われています。聖書66巻を見ながら、キリストをより深く知っていくようになること、そこに重点を置いて、そこに重荷を置くようになるでしょう。さまざまな問題があり、いろいろな心配事、弱さがあるかもしれません。それを放つたらかしにするわけではありませんが、直接そこに関わるのではなくて、それを取り上げてキリストに優先、キリストを見上げて、キリストをより深く知っていく材料、機会にしていくことです。これを信仰生活と言います。今まで私たちが自分なりに勝手に信仰生活というイメージを持っていたもの、それを全部崩していかないといけません。また、誰かを見て、どこかの教会を見て、信仰生活はこういうものだというイメージを持っていたかもしれません、当てにしてはいけません。信仰生活は基本的にキリスト優先、キリストを見上げて、キリストをより深く知っていくことが信仰生活です。

5) キリストを味わい

そして、そのようになった分、キリストを味わうようになるでしょう。弱さがあつて落胆するのではなくて、過ちを犯したからといって信仰から離れるのではなくて、キリストを味わっていないから、よりキリスト深く味わうべきなんだということに気づいてそちらの方に入っていくようになります。それを信仰生活と言います。他人の弱さを見たときにも、自分の失敗を見たときにも、そのために十字架で犠牲を払われてすべてを完了したと宣言されたキリストを味わうことが信仰生活です。マルタのように偉そうに常識に従ってどうのこうのというのは必ず悪魔にやられるしかありません。だから、このキリストを告白して、そのキリストの御名によって神の国が臨まれ、神の国がなされることを期待して祈ること、それがキリストを味わうことなのです。それを信仰生活と言います。

6) キリストを伝えることに軸を置く

ならば、結果的にその信仰生活の実はなのようになるのかと言いますと、当然のこと、このキリスト伝えることに軸を置いて人生を生きていくことになります。そこに編集があり、設計があり、デザインというものが生まれることになるでしょう。自分の人生に対して。このような内容を信仰生活と言います。これを基本にして、基にして、一番の軸にして、ここからすべてを広げていくことを信仰生活と言います。そういう意味でマリアは、そのキリストであるイエス様が来られたので、このキリストを基準にキリストのみことばを聞くことが第1になるしかありませんでした。キリストによって内側が整えられて、今までの間違っていた刻印が碎かれて、神のみことばによってキリストによる新しい神の国が出来上がっていらないのに、他に何かをどういう意味で一生懸命頑張ったとしても、結局は失敗に終わるようになります。学校の勉強をストップして仕事の就職を少し延期しても集中して訓練に臨むということは、誰でもそうすべきだではなくて、常識に立って見た人はすぐに就職してお金を稼いで、未来に備えて生活のために頑張らなきやいけないのでと思うかもしれません。しかし、キリスト中心に内側が整えられていないのにいくら就職して金を稼いだとしても何の役にも立たないし、むしろそれがわざわいを招くことになってしまふかもしれません。よく考えてください。皆さんのが今からでも仕事を辞めて家庭を飛び出して、また勉強やめて集中しましょうという意味ではありません。それをしながらでもマリアのようにキリストにすべてのフォーカスを合わせて、そのキリストのみことばを聞き、そのキリストに豊かに満たされると、神の国に豊かに満たされることを第一に優先することが信仰生活です。その結果、実を結ぶようになり、自分の身の回りから神の国のがなされる証拠を見て、それが237、5000未伝道種族にまで必ずそのようなわざが行われることを信じて、神様が備えられたそうなれる人を探し求めて、その人を自分のように整えて立てることを絶対やぐらを立てると言うわけです。話が難しいかもしれません、難しい話ではありません。信仰生活に対しての勘違いと誤解を払拭して、聖書が言っている通りにマリアのように何が信仰生活なのか、何が正しい信仰生活なのかを靈的事実に基づいて正しく理解して整理して、本当にクリスチャンとしての特権であり、クリスチャンにしかできない信仰生活をしていければ癒しはついてきます。もちろん戦いはあるでしょう。その結果、証拠が与えられ証人となり、皆さんの身の回りから必ずいのちの運動が行われるはずなのです。それを信仰生活と言います。マルタのように一生懸命主のために、何のためと動き回って頑張ったつもりなのに、いのちの実とは全く関係ない信仰生活、そのような信者の期間がずっと流れることはなんと残念なことでしょうか。なので、改めて今日の聖書を中心にして、私たちに先に入っている刻印、先入観みたいなものを吟味して、それを碎いて、聖書が教えている通りに靈的事実に基づいて信仰生活を正しく理解し整理して、ぜひ宗教生活ではなくて信仰生活をして、それに成功

する信者になりましょう。

という意味で結論的に申し上げますと、これから私たちが祈るべき課題、また私たちが挑むべき信仰生活は何でしょうか。キリストとより親しくなりましょう。そしてもっと聖書的な言葉で言いますと、キリストと恋しましょう。これが信仰生活なのです。それで宗教生活と信仰生活の違いが何なのかを見極める信者になりましょう。改めてなぜ Only キリストなのかということを改めましょう。靈的事実に根を下ろしましょう。Only、Only と言いながらも靈的事実があいまいな場合は、Only という言葉の意味が全く力のないものになります。靈的事実がないのに Only というのは独善ではないでしょうか。自分の頑固でしかないものではないでしょうか。そういうものではありません。靈的事実があるからこそ Only キリストなのです。それを改めて Only になってカルバリ山の完了の契約、オリーブ山の神の国ミッション、世の中に必要なのは神の国なのです。私たちに必要なも神の国なのです。マルコのタラッパンの聖靈充满の約束を握って、その体験、このような契約を默想して、皆さんがいらっしゃる現場から地の果てにまでイエスの証人となることをメインの軸にして祈っていくクリスチャンになりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日も私たちがつい勘違いしてしまう信仰生活について、聖書を通して教えてくださりありがとうございます。どうか正しい信仰生活によって証人となり、神の国を体験し、237、5000 未伝道種族に絶対やぐらを立てる主人公になるように靈的事実を正しく知り、心から認めて、Only キリストからスタートできるようにひとりひとりを祝福してください。ここに集っている愛する兄弟姉妹ひとりひとりがカルバリ山の完了を通じて、オリーブ山の神の国を通じて、マルコのタラッパンの聖靈充满を体験して証人として用いられるように豊かに祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。